

厳しい寒さが続きますが、皆様、皆様の動物家族はお元気にお過ごしでしょうか？

1995年1月17日に阪神・淡路大震災が起きました。そして昨年3月の東日本大震災。被害にあわれた方、そのご縁の方は今なおご苦勞の多いことと思います。今年が平穩な幸多い年であることを祈らずにはられません。

平成24年1月19日

## お知らせ

- ワンちゃんの予防接種料金を値下げいたしました。  
(健康診断件はこれまで通り進呈いたしますのでお使い下さい)
- 新しい超音波診断機がはいりました。  
積極的に診療に取り入れていきたいと思っております。
- ホームページがリニューアルいたしました。ご覧下さい！  
(MEMUレターもHPでご覧いただけます)



### \* 休診時のお電話についてのお願い

病院にスタッフが不在のときは、携帯電話におかけなおし下さるようメッセージをながしておりますが、この携帯電話は非通知設定の電話を着信拒否にしております。

休診時にお電話を下さるときは、おかけになる電話機の非通知設定の解除をお願いいたします。

## 健康トピックス

**室温** ワンニャンに最適な室内温度は22℃～24℃と言われていますが、体質、生活環境によって個体差があります。一般的にワンは寒さに強く、暑さに弱い。ニャンはその逆で寒さに弱く、暑さに強いです。室温のめやすとして、人が厚着をして寒いと感じないくらいであればOKです。病中の子、小さい子、老齢の子は体温調節が上手くできませんから、もう少し暖かくしてあげて下さい。

ただし適温などおかまいなく、ほとんどのワンニャンは暖かい所が大好きです！ ほっておくと、ヒーターの前で毛が焦げていることも・・・火傷、低温火傷、また暖めすぎによる熱中症(特に短頭種のワン達)にはご注意ください。

**泌尿器疾患** 寒い→動かない→水を飲まない→トイレの回数が減る、このように冬場は尿が濃縮され膀胱に長くとどまり、泌尿器系の疾患を起こしやすくなります。寒いときでも適度な運動が必要です。ヒーターの前から引きはがしてお散歩に行ってください。お外が嫌いな子、ニャン達は室内遊びに励んで下さい。この季節に限らないことですが、オシッコの回数・量・臭い・色は健康のバロメーターとしてチェックするようにしましょう。

## ■ 風邪のこと ■

犬・猫には人間と同義での風邪という病気はありません。が、風邪に似た病気、風邪と同じような症状はあります。風邪、および風邪のような病気は、人・犬・猫で原因となるウイルスが違いますのでお互いうつしあうことはありません。(これまでに世界で数例、犬猫の人と同じ型のインフルエンザ感染報告はあります)

まず知っているようで、意外と正確には知らない人の風邪についてです。日本呼吸器学会のHPによれば・・・

風邪とインフルエンザはまったく違う病気だそうです。(“風邪”ではなく平仮名で“かぜ”と表記されていました。) 以下、その抜粋です。

>> 鼻からのどにかけての空気の通り道、つまり上気道といわれる呼吸器の感染症で、原因の大半がウイルス。症状はくしゃみ・鼻水・鼻づまり・のどの痛み・咳・痰などが共通してみられ、発熱・頭痛・全身倦怠感を伴うこともある。これらを『かぜ症候群』とまとめて呼ぶ。自然に治るもので、風邪薬で治るものではない。普通は3～7日で治るが、14日程度かかる場合もある。

インフルエンザはかぜと同じように気道粘膜にインフルエンザウイルスが感染して引き起こされる病気であるが、高熱や関節痛、筋肉痛、強い全身倦怠感といった全身症状が主にみられる。<<

余談ですが、風邪がお腹にきた、ということがありますがそれは・・・

「消化管のウイルス感染によって嘔吐・下痢・腹痛などの腹部症状と風邪の全身症状を来した状態を「感冒性胃腸炎」や「お腹の風邪」と呼ぶこともある」のだそうです。

### 風邪と同じような症状

犬・猫で鼻炎、気管支炎などに罹ると鼻水・くしゃみ・咳などの症状をだすことがあります。また、肺炎や心臓疾患などの重篤な病気の一症状としてこれらがあらわれる場合もあります。

**風邪と似た病気** 俗に犬の風邪、猫の風邪といわれるものがあります。

**犬の風邪** ケネルコフ(犬伝染性気管気管支炎)という病気です

持続性の咳を主体としたウイルスや細菌、マイコプラズマなどいくつかの病原体の感染が原因となる呼吸器疾患です。すべての年齢層の犬に感染の可能性があります。仔犬で重篤化する傾向にありますが適切な治療をすればほとんどの場合が回復します。

**猫の風邪** 伝染性鼻気管炎(FVR)という病気です。猫ヘルペスウイルスや猫カリシウイルスの感染によるウイルス性上部気道感染症です。鼻炎や上部気道炎を引き起こし、同時に角膜炎や結膜炎など目の粘膜にも激しい炎症を引き起こします。どの年齢層の猫にも感染の可能性があります。仔猫では重篤な症状となり時には死亡することもあります。またウイルスは一度感染すると生涯猫の身体の中かに住み続け、慢性化したり、治ったように見えても免疫力が衰えたり、高齢になつたりすると症状をだす場合があります。再発の場合、私がこれまでみてきた限りで適切な治療で症状は治まっています。猫ヘルペスウイルス、猫カリシウイルスにはワクチンがあります。

猫の風邪は人の風邪とはかなり違う病気です。

---

### 編集後記

動物病院の年末年始はお預かりの子達のお世話で終わります。皆様大切な子供たちをお預りするわけで、無事にお返しすると本当にホッといたします。病院にお泊りするときは、飼い主さんの知らない別の顔をみせたり・・・次号ではこのあたりをお話したいと考えております。

震災後、愛する動物達と共に過ごせる平穏な毎日がこの上なく大切なものと思い知りました。皆様にも私自身にもこのような日々が続くことを願って止みません。

では、「かぜ症候群」やインフルエンザに罹られませぬようご暖かくして、睡眠をたっぷりとお過ごし下さいませ。

